

# 地域伝承野菜（尾上菜）のブランド化事業【記事掲載】



●尾上菜の種を植える県立長浜農業高校の生徒たち。⑥ブランド化が進む長浜市の地域伝承野菜「尾上菜」。⑦尾上菜などの研究に取り組む学生ら（長浜バイオ大）



## 「尾上菜」先端技術で栽培へ

9/22

読売

長浜農高とバイオ大連携

生産が減っている長浜市の地域伝承野菜「尾上菜」の栽培が、県立長浜農業高（名越町）で始まっている。高校の栽培技術と長浜バイオ大（田村町）が持つ先端技術で、ブランド化につなげたい考えだ。市も栽培を計画しており、産官学が一体となつて、住民らが長く守り育ててきた尾上菜の普及に取り組む。

（田上秀樹）

尾上菜は、同市湖北町尾上地区で古くから栽培されてきたアブラナ科の植物。血糖値を下げる効果があるとされ、地元では漬物や煮物などとして家庭の食卓に上がってきた。しかし、高齢化などで生産農家が減り、現在は4軒が栽培しているだけだという。

バイオ大では、尾上菜を市内の特産品にしようと、昨年9月から、蔡晃植学長をリーダーにプロジェクトチームを編成。生産農家から譲り受けた種を学内で試験的に栽培し、遺伝子の解析も進めてきた。

14日は、長浜農業高の農場で農業科2年の11人が、バイオ大から譲り受けた、遺伝子の型が異なる系統の種122粒を土を入れたトレーレに植えた。青木南彩希さん（16）は、「まずは元気育ててほしい。長浜の特産として、様々なところで育てていけるようになればうれしい」と期待。10月末には収穫できる見込みで、同高では栽培のノウハウを記録したマニュアルを作成しておこしへの期待が高まっている。

## 高齢化で生産減 産官学でブランド化目指す

▲読売新聞（平成30年9月22日）

## 遺伝子汚染された“幻の野菜”



長浜市湖北町尾上地区で古くから栽培されてきた「尾上菜」=写真右・長浜バイオ大提供=を「復活させ、ブランド化して新たな特産品に育てよう」という取り組みが進んでいる。尾上菜の魅力を掘り起こした長浜バイオ大の蔡晃植学長（58）=同上=を中心に関係機関も連携。県立長浜農業高校（名越町）の農場で種子の栽培が始まるなど、地域おこしへの期待が高まっている。【若本和夫】

## 新たな特産品へ 地元機関がタッグ

# 尾上菜



## ゲノム解析 原種に近い系統目指す

「遺伝子汚染」が起きており、形質も均一ではなくなっていた。そこで、蔡学長をリーダーとするバイオ大プロジェクトチームは、地元の道の駅で販売されることはない。尾上菜はアブラナ科の植物で、漬物や煮物にして地元で親しまれてきた。漬物が時折、地元の道の駅で販売されることはあったが、本格的な商品化はされずに、地元の3、4軒で栽培が続けられただけだった。

尾上菜が注目されたのは数年前、蔡学長が「尾上菜について知りたい」という問い合わせを受けたことがきっかけ。当時は蔡学長も尾上菜を知らず、いわば「幻の野菜」だった。蔡学長が昨年3月に初めて現地を視察したところ、栽培されていた他のアラ

尾上菜には他のアラ



## 特産物に育って

（尾上菜の種を栽培用トレーラーにまく生徒たち）長浜バイオ大が商品化を目指す尾上菜（同大学提供）

▲京都新聞（平成30年9月15日）



尾上菜の種子をまく県立長浜農業高の生徒たち  
—長浜市名越町で

農高、県調理短期大学校、長浜バイオインキュベーションセンターとも連携し、尾上菜を復活し、特産化する取り組みが始まった。今月14日には、長浜農高の農業科2年生11人が、バイオ大の試験栽培でできた種子のうち、原種に近いと考えられる、遺伝子型が異なる系統の種子を手を入れたトレーラーにまいた。10月下旬には葉を茂らせ、来春には種子が採取できるとい

蔡学長は「オール長浜の力で、長浜の特産品を生み出していきたい」と将来を見据えて



## 長浜農業高とバイオ大が試み

（長浜農業高の生徒たち）長浜バイオ大が商品化を目指す尾上菜（同大学提供）

▲中日新聞（平成30年9月15日）

▲毎日新聞（平成30年9月27日）

尾上菜普及へ種まき 長浜農業高生 バイオ大と商品化目指す伝統野菜

「尾上菜」を特産品に 中野・「尾上菜」を特端技術

（中野）

（中野）